

陰嚢内に発生した bizarre leiomyoma の1例

藤田学園保健衛生大学医学部泌尿器科（主任：名出頼男教授）

西山 直樹・日比 秀夫・柳岡 正範・名出 頼男

A CASE OF BIZARRE LEIOMYOMA OF THE SCROTUM

Naoki NISHIYAMA, Hideo HIBI, Masanori YANAOKA
and Yorio NAIDE*From the Department of Urology, School of Medicine, Fujitagakuenhokensei University
(Director: Prof. Y. Naide)*

A case report of a bizarre leiomyoma of the scrotum in a 46-year-old male is presented with a review of the literature. The patient was admitted to our hospital with the chief complaint of swelling of the left scrotal content for about 20 years. The tumor was surgically removed easily. Histological findings revealed bizarre leiomyoma. This case is the first report of bizarre leiomyoma of the scrotum in Japan.

Key words: Bizarre leiomyoma, Scrotum, Leiomyoma

緒 言

睪丸、副睪丸および精索とは無関係な、いわゆる陰嚢内腫瘍は稀なものである。われわれは、陰嚢肉様膜より発生したと考えられる平滑筋腫（bizarre leiomyoma）を経験したので、若干の文献的考察をくわえて報告する。

症 例

患者：小○正○，46歳，男

主訴：左陰嚢内腫瘍

家族歴：特記すべきことなし

既往歴：特記すべきことなし

現病歴：約20年前より左陰嚢内に大豆大の腫瘍があることに気付いていたが放置、徐々に増大してきていたが数年前よりはその大きさに変化はない。疼痛は認めなかった。1985年1月21日藤田学園保健衛生大学病院泌尿器科を受診、左陰嚢内腫瘍の疑いにて入院となった。

入院時現症：体格中等、栄養良好、胸腹部理学的所見に異常なし。左陰嚢内に小鶏卵大の腫瘍を認めた。腫瘍は一部に結節を認め、弾性硬であり、陰嚢皮膚との癒着を認めた。睪丸、副睪丸、精索とは容易に区別できた。

入院時一般検査：血液、生化学的検査に異常はなく、胸部X線写真にも異常を認めなかった。

手術所見：局麻下に左陰嚢内に約7cmの皮膚切開を加え陰嚢内容を観察した。睪丸、副睪丸、精索には異常を認めず、それらとは別に陰嚢皮下に小鶏卵大の腫瘍を認めた。腫瘍は睪丸総鞘膜とは癒着はなく、陰嚢皮膚との間に癒着を認めた。この癒着を剝離し腫瘍のみを摘出した。

摘出標本肉眼所見：摘出された腫瘍は6×5×4cmで、黄白色、弾性硬であり、被膜は明らかではなかった（Fig. 1）。

断面では分葉構造を呈していた。出血、壊死は認めなかった（Fig. 2）。

病理組織学的所見：紡錘型の核を有し好酸性の細胞質をもつ細胞が柵状に配列しており一部にリンパ球の浸潤を認めた（Fig. 3）。また大型で不整形の核を持つ細胞を認めたが分裂像はみられなかった（Fig. 4）。以上の所見より bizarre leiomyoma と診断した。

考 察

いわゆる陰嚢内腫瘍とは、Lowsley¹⁾は睪丸、副睪丸、精索以外で肉様膜より固有鞘膜外膜までの間に発生した腫瘍としており、われわれもこれに従った。

皮膚平滑筋腫は、multiple cutaneous leiomyo-



Fig. 1

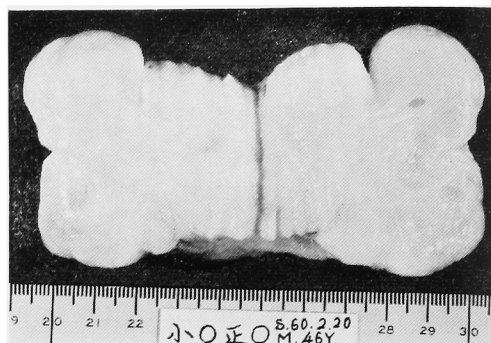


Fig. 2

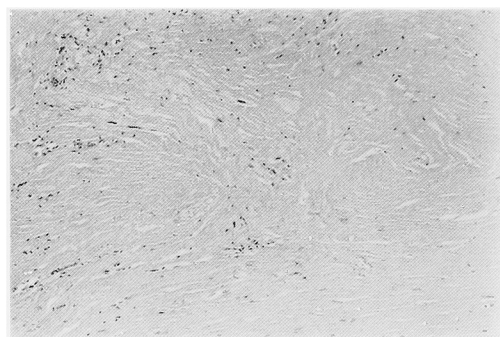


Fig. 3

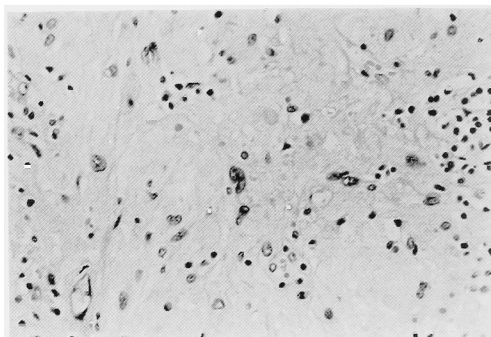


Fig. 4

Table 1. Data on leiomyoma of the scrotum reported in the literature.

No.	Age	Laterality	Size	Presenting Complaint	Reference
1	79	Left	12x9x7	Swelling of the left scrotal contents	Kawai et al.
2	27	Left	9x6x5	Swelling of the left scrotal contents Dysuria	Kawaguchi et al.
3	30	Right	6x5x4.5	Swelling of the right scrotal contents	Kanda et al.
4	46	Left	Size of small finger tip	Painful swelling of the left scrotal content	Shigematsu et al.
5	46	Left	6x5x4	Swelling of the left scrotal content	Present case

ma. solitary angioleiomyoma. solitary genital leiomyoma の3型があり本症例は solitary genital leiomyoma に相当する。この腫瘍は陰嚢肉様膜より発生すると考えられているが²⁾、陰嚢真皮に存在する myofibroblasts が増殖して皮下へはり出してくるとの意見もある³⁾。本症例においては、腫瘍と真皮との間に癒着を認めたが、真皮から発生したのか、肉様膜より発生したのかは不明である。陰嚢内平滑筋腫はしばしば有茎性のものもあり⁴⁾、そのような例で検討するとあるいは発生母地がはっきりとするかもしれない。

本症例のように、不整型で大型の核を有するもの

は、bizarre leiomyoma と呼ばれ、Shuman⁵⁾ は時として悪性の可能性があるとしているが、本症例においては、術後1年の時点では再発の徴候はない。

本邦における陰嚢内平滑筋腫を表に示す⁶⁻⁹⁾ (Table 1)。本症例は陰嚢内平滑筋腫としては本邦5例目、陰嚢内 bizarre leiomyoma としては本邦1例目と考えられる。

結 語

46歳の男性に発生した陰嚢内 bizarre leiomyoma を報告した。

本症例は、第 147 回東海地方会において発表されたものである。

文 献

- 1) Lowsley OS, Kirwin TJ: Clinical Urology, p. 174, The Williams & Wilkins Company, 1956
- 2) Stout AP : Solitary cutaneous and subcutaneous leiomyoma. Amer J Cancer **29**: 435~469, 1937
- 3) Siegel GP, Gaffey TA: Solitary leiomyomas arising from the tunica dartos scroti. J Urol **116**: 69~71, 1976
- 4) Grace DA Leiomyoma of the scrotum. J Urol **91**: 396~399, 1964
- 5) Shuman R : Chap. 17, Tumors of smooth muscle. Pathology, Anderson WAD Vol. 1, 6th Nankodo, Tokyo, 1971
- 6) 河合恒雄・田中一成・森田 上・寺島和光：陰嚢内腫瘍の 1 例. 臨泌 **23** : : 581~584, 1969
- 7) 川口光平・美川邦夫：陰嚢良性腫瘍の 1 例 (Fibro-leiomyoma). 日泌尿会誌 **64** : 440, 1973
- 8) 神田静人・藤田幸雄：陰嚢内平滑筋腫. 日泌尿会誌 **65** : 409, 1974
- 9) 重松俊朗・中島乃婦子・谷村 晃・黒田貞利：陰嚢内平滑筋腫の一例. 西日泌尿 **37** : 428~429, 1975

(1986年6月6日受付)